

事業コード	H26-建-継-05		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防事業		班 名	砂防・防災班 (tel) 018-860-2519
路線名等	沼山沢川		担当課長名	河川砂防課長 吉尾 成一
箇所名	横手市大沢字沼山		担当者名	主幹(兼) 班長 鈴木 護
総合計画との関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化
	施策コード	01	施 策 名	健全な県土保全の推進
	指標コード	01	施策目標(指標)名	地震、治水、治山対策等による生命と財産を守る安全な地域づ

1. 事業の概要

事業期間	H05 ~ H30 (26年)	総事業費	19.5億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	砂防えん堤N=4基、溪流保全工L=1,894m、床固工N=3基					
事業の立案に至る背景	当地区は、複数の土石流危険溪流が集中した地域にあり、保全対象として人家40戸やJR北上線、市道、中高一貫校等の公共施設を抱えている。平成13年8月及び平成22年7月の豪雨では、流出した土砂によって唯一の避難路である市道が一時不通となり、沼山地区が孤立する被害が発生している。また、沢々では溪岸侵食が著しく不安定土砂が河床に堆積しており、今後も融雪や大雨によって土砂災害の発生する恐れがある。土砂流出による地区の孤立を防ぐとともに、下流保全対象を土砂災害から守るため、当初計画から砂防えん堤を1基追加して砂防設備を整備する。					
事業目的	過去に土砂流出で孤立した沼山地区を始め、被害が想定される範囲の住民の人命と財産を守るため、砂防設備により土石流を捕捉し、県土の保全と防災力の強化を推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	1,728,000	1,940,800	212,800		
	経費内訳	工事費	1,193,000	1,252,900	59,900	
		用補費	300,800	301,700	900	
		その他	234,200	386,200	152,000	
	財源内訳	国庫補助	864,000	970,400	106,400	
		県債	777,600	873,400	95,800	
		その他	0	0	0	
一般財源	86,400	97,000	10,600			
事業内容	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工 床固工 用地補償			平成22年7月に土砂流出の発生した桑木沢2に対して、砂防えん堤工を追加した事による。	
事業の進捗状況	全体計画 C=19.41億円 平成25年度末投資額 C=14.83億円 進捗率 76.4%					
事業推進上の課題	砂防えん堤工4基のうち2基について、約100人の共有地があり、用地取得が難航している。					
関連する計画等	第2期ふるさと秋田元気創造プランにおいて、県民の基礎的な生活環境を整備するために県が継続的に取り組むべき基本政策のうち、「県土の保全と防災力強化」に位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	全国各地で集中豪雨に伴う土砂災害が発生しているが、県内でも人命を失う大規模な土砂災害が発生している。平成22年度に地区の孤立が再発しているため、ハード・ソフト一体となった土砂災害対策の整備が急務となっている。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率				
	指 標 式	概成箇所数/危険箇所数				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	25 %	データ等の出典	河川砂防課調べ		
	実績値 b	24.1 %				
達成率 b/a	96.4 %	把握の時期	平成26年3月			

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	保全対象として、人家40戸のほか、唯一の避難路となる市道や中高一貫校、JR北上線などの公共施設がある。平成13年8月や平成22年7月の豪雨では溪流からの土砂流出により市道が不通となり、沼山地区が孤立するなどの被害が発生している。これらのことから地元のニーズは高く、対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	平成22年7月にも土砂流出が発生するなど、流域内の斜面や溪流で危険度の低下は見られない。	10点
有 効 性	砂防えん堤等の設置により、多数の保全対象を保護することが出来るため、有効性は高い。また、保全対象に変化はなく、事業の有効性に影響はない。	10点
効 率 性	事業の費用対効果は1.22であり、効率性は高い。また、工法上の課題はなく、工事に着手することが出来れば順調な進捗が見込まれる。コスト縮減についても、現地発生土を利用した砂防えん堤工を採用するなどの取り組みをしている。	30点
熟 度	平成22年7月の土砂流出を受けて砂防えん堤1基を計画に追加したことなどから、進捗は遅れているものの、地元の協力もあり概ね計画通りに進んでいる。しかしながら、えん堤2基の実施計画地点で約100人の共有地があり、解決する見込ではあるものの用地取得に時間を要している。	10点
判 定	ランク (<input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III) 地元からの要望が強く、「必要性」「緊急性」「効率性」等から、本事業は高く評価できる。	80点
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業実施は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H26-建-継-05)
箇所名 (横手市大沢字沼山)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計	20	20		
緊急性	危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計	10	10		
有効性	災害発生時の影響	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している (80%以上)	5		
		非常に減少している (80%未満)	0		
	計	10	10		
効率性	事業の効率性・進捗状況	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
	コスト削減計画	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0	10	
		具体的なコスト削減計画がある	10		
具体的な計画はないが、検討中である	5				
コスト削減計画無し	0				
計	30	30			
熱度	地元の協力状況	計画どおり進捗している (100%以上)	10	5	用地、補償物件等
		概ね計画どおり進捗している (70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている (70%未満)	0		
	事業の進捗状況	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	5	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0	5	
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している		0			
計	30	10			
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		